

贖罪への道（ホセア書 14：1-9）

本日でホセア書からのメッセージは終わりになります。この預言の書の中で、神は預言者ホセアを通してイスラエルの民に語っています。神は彼らを罪の中から呼び出し、彼らの罪を非難し、彼らを民として創造された神であるご自身に立ち返るよう、愛をもってイスラエルの民を諭されました。この書を通して、神は、ご自身を、その罪深さにもかかわらず彼らを忠実に追い求める愛に満ちた夫として、また、イスラエルの民を、その夫に対して不倫を犯す妻として、描いてきました。さらに、この書には、預言者ホセア自身が、神の指示に従って姦淫を犯す妻ゴメルと結婚し、売春から買い戻したという現実の例によって、さらにはっきりと神の愛の姿が描かれているのです。本日は、ホセア書 14 章というこの書の終わりで、ホセアが神のこの愛に対してイスラエルの人々に応答することを求めている点を見ていきます。このホセアの主張の中に、私たちは贖罪への道を見ることができます。

ホセアが最後の預言を始める1節から読み始めましょう。¹ **イスラエルよ。あなたの神、主に立ち返れ。あなたは自分の不義につまずいたのだ。**ここに、イスラエルの民がその姦淫をやめ、神のもとに帰るようというホセアの最後の呼びかけを見ることができます。この章の中で、ホセアは彼らに贖罪への道をさし示していきます。この1節の言葉から、ホセア書のこれまでの13章ではっきりと示された彼らの罪の大きさを理解することが前提となっていることが分かります。「自分の不義」、つまり罪というこの二つの言葉は、イスラエルの民だけでなく、私たちに対しても向けられたものなのです。イスラエルの民と同じように、私たちも今日、ここに存在しているのは神のおかげなのです。神はイスラエルという国を創造しましたし、私たちも創造されました。創世記 1 章 27 節では、²⁷ **神は人をご自身のかたちとして創造された。神のかたちとして人を創造し、男と女に彼らを創造された、**と書かれています。私たちは神の姿を反映した完璧な姿に創造されましたが、最初の人間アダムが罪を犯したとき、私たちは皆、生まれながらにして罪を持った、原罪の状態に落ちてしまいました。詩篇 51 篇 5 節では、この原罪の状態を、⁵ **ご覧ください。私は咎ある者として生まれ罪ある者として母は私を身ごもりました、**と述べています。私たちは原罪の状態にあるだけでなく、積極的に罪を犯さないように選択する力もないのです。よって私たちは、原罪の状態にあることに対して神から有罪判決を受けるだけでなく、私たちが日々犯し続ける罪に対しても神から有罪判決を受けるのです。ローマ人への手紙 3 章 23 節には、²³ **すべての人は罪を犯して、神の栄光を受けることができず、**とあります。聖書の最初の2章は天地創造と墮落であり、ここから福音のメッセージは始まっているのです。私たち誰もがこの聖書の物語の一部であり、その墮落に巻き込まれているのです。私たちの誰もが、墮落やその結果から逃れることはできません。その不義、罪の結果は、このホセア書にもはっきりと記されているように、神は、創造主を捨てたイスラエルの不忠実な民に、何度も何度も罰を与えると約束されているのです。

しかし、福音は良い知らせであり、福音の物語は、天地創造と墮落で終わってはいません。もちろん、皆さんは、そこで話を終えてしまうこともできます。ただ、皆さんには、罪には罰があり、永遠にその罰に苦しむことになるという点は覚えておいていただきたいのです。マルコの福音書 9 章 48 節では、⁴⁸ **ゲヘナでは、彼らを食らううじ虫が尽きることがなく、火も消えることはありません、**と書かれています。しかし、福音の物語は罪と罰の話で終わってはいません。被造物を創造し、その被造物が罪に墮ちるのをご覧になった神は、私たちの贖罪への道も備えてくださいました。その道はこの章に描かれている通りです。2節から3節を見ていきましょう。² **あなたがたはことばを用意し、主に立ち返れ。主に言え。「すべての不義を赦し、良きものを受け入れてください。私たちは唇の果実をささげます。**³ **アッシリアは私たちを救えません。私たちはもう馬に乗らず、自分たちの手で造った物に『私たちの神』と言いません。みなしごがあわれまれるのは、あなたによってです。」**ここには、贖罪への最初の一步である悔い改めが述べられています。贖罪は、常に悔い改めと結びついています。悔い改めは、救いをもたらす私たちの信仰と同じく神の賜物であると同時に、私たちが罪人であることを理解した時に与えられる命令でもあります。使徒の働き 11 章 18 節には悔い改めが神の賜物であると書かれています。¹⁸ **人々はこれを聞いて沈黙した。そして「それでは神は、いのちに至る悔い改めを異邦人にもお与えになったのだ」と言って、神をほめたたえた。**そして、マタイの福音書 4 章 17 節は悔い改めが命令であると述べています。¹⁷ **この時からイエスは宣教を開始し、「悔い改めなさい。天の御国が近づいたから」と言われた。**ホセアがこの悔い改めの祈りの中で示しているのは、真の悔い改めの姿です。悔い改めにとって一つ目に重要なことは、明確な言葉です。ホセアは「**こと**

ばを用意し…」と言って、祈りを始めています。まず、悔い改めが成立するためには、私たちから神へ声を出さなければならないのです。私たちが神を怒らせてしまったのです。私たちは主に対して姦淫を犯してしまったのだから、私たちが悔い改めの言葉をもって戻るべき相手は主なのです。悔い改めにとって二つ目に重要なことは、自分の罪を認めることです。彼らは「**すべての不義を赦し**」てくださいと祈るように言われています。そして、漠然とした罪ではなく、彼らが実際に犯した罪を挙げているのです。彼らは具体的に、神を拒絶し、何を信じたのかを列挙しています。アッシリアを信じたこと、彼らの馬や軍力を信じたこと、彼らが『**私たちの神**』と偽って呼んだ偶像を信じたこと、これらのことを列挙しています。悔い改めにとって三つ目に重要なことは、その罪から離れること、拒絶することなのです。これは、イスラエルの民がこの祈りの中で行っていることです。彼らは列挙した罪をこれ以上犯さないとして、拒絶しています。悔い改めにとって四つ目に重要なことは、神に立ち返ることです。彼らは、**みなしごがあわれまれるのは、あなたによってです**、という言葉で神の憐れみを懇願しています。イスラエルの民は、自分たちが失敗したことを認めています。彼らは、自分たちが父を拒絶し、孤児ようになってしまったことを認識し、その関係を修復する唯一の方法は神の憐れみであることを理解しているのです。イスラエルの民は自分たちの罪を赦すことができず、また、神が自分たちを赦す義務も負っていないことも分かっていました。だから、彼らにできることは、神の憐れみを懇願することだけだったのです。

私たちは悔い改めをするときに、宗教的でありながら福音中心でない偽りの悔い改めをする時があります。このような悔い改めは利己的で独善的であり、辛辣ですらある時があります。このような悔い改めは、罪の結果を悔んでいるのであって、罪そのものを悔いているのではないのです。このような悔い改めは、悔い改めではなく、罪そのものを償う方法になっているのです。なぜなら、もし私たちが罪を犯した結果、泣くほど惨めであれば、赦されるに値すると私たち自身が考えているからです。これは真の悔い改めとは正反対のものです。私たちが悔い改めを考えると、それが真の悔い改めであるかどうかを確かめるために、次に挙げる4つの質問をすることが大切です。一つ目の質問は、その悔い改めが神に向いているのか、私に向いているのか、を問うことです。詩篇 51篇4節には、⁴ **私はあなたにただあなたの前に罪ある者です。私はあなたの目に悪であることを行いました。ですからあなたが宣告するとき あなたは正しくさばくとき あなたは清くあられます。**と書かれています。二つ目の質問は、その悔い改めが、神へ罪を犯したことの悲しみによるものなのか、利己的な後悔によってつきうごかされているのかを問うことです。第二コリント人への手紙7章10節には、¹⁰ **神のみこころに添った悲しみは、後悔のない、救いに至る悔い改めを生じさせますが、世の悲しみは死をもたらします。**と述べられています。三つ目の質問は、その悔い改めが私の心を変えたのか、それとも外面的な行動だけを変えたのかを問うことです。詩篇 51篇10節には、¹⁰ **神よ 私にきよい心を作り揺がない霊を私のうちに新しくしてください。**と書かれている通りです。そして最後の四つ目の質問は、罪の罰と力の両方を取り除いてくださるイエスに期待しているかどうかを問うことです。テトスへの手紙2章13節-14節にはこう書かれています。¹³ **祝福に満ちた望み、すなわち、大いなる神であり私たちの救い主であるイエス・キリストの、栄光ある現れを待ち望むように教えています。**¹⁴ **キリストは、私たちをすべての不法から贖い出し、良いわざに熱心な選びの民をご自分のものとしてきよめるため、私たちのためにご自分を献げられたのです。**

もしイスラエルの民がこの祈りを祈っていたのなら、聖書が定義する真の悔い改めを示したことになるでしょう。また、神は彼らの**背信を許し、贖罪をもって応えられた**でしょう。⁴ **「わたしは彼らの背信を癒やし、喜びをもって彼ら愛する。わたしの怒りが彼らから離れ去ったからだ。これが真の赦しです。また、背信からの癒しでもあります。彼らに対する神の怒りは離れ去り、神は惜しみなく彼らに愛を与えられました。ここで、皆さんにはこの神の怒りが離れ去り、と書かれているところに注意を向けていただきたいのです。私たちが赦されるのは、単に私たちが悔い改めの言葉を述べたからではなく、誰かが私たちの代わりに神の怒り、その罪に対する神の怒りを受け止めてくれたからなのです。それを宥めと、キリスト教では呼びます。第一ヨハネの手紙2章1~2節、¹ **私の子どもたち。私がこれらのことを書き送るのは、あなたがたが罪を犯さないようになるためです。しかし、もしだれかが罪を犯したなら、私たちには、御父の前でとりなしてくださる方、義なるイエス・キリストがおられます。**² **この方こそ、私たちの罪のための、いや、私たちの罪だけでなく、世全体の罪のための宥めのささげ物です。イエスが十字架で死なれたとき、神はその怒りをイエスの上に注がれまし****

た。だから、私たちが悔い改め神に立ち返るとき、私たちの罪の対価がすでに支払われている、すなわち、私たちの代わりにイエスが罰を受けてくださったという事実に基づいて、神は私たちを赦してくださいのです。今日、この宥めという言葉を使いたがらない人が大勢います。この人たちは、神がイエスに怒りを注いだという事実を思い起こしたくないのです。しかし聖書は、罪は償われなければならない、そして、神の怒りは罪に向けられていると明言しています。イエスは罪の対価を私たちのために払ってくださったというだけでなく、神の怒りの罰も進んで受けてくださったのです。イエスは、ご自分の十字架の上での死によって、犠牲となり、悪に対する勝利を収めたばかりではありません。これらはどちらも真実ですが、それ以上のことをされました。イエスはその死において、救いを可能にするために私たちにすべてを与えてくださったのです。これこそ、不誠実な被造物である私たちに対する真の愛なのです。ヨハネの福音書 3章16節には、¹⁶ **神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに世を愛された。それは御子を信じる者が、一人として滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。**と書かれています。

イエスの死によって、私たちは、創造主との関係を回復することができるようになったのです。この箇所では、神の祝福によってイスラエルの民が神の御前に戻ってきたこと、神との関係が回復されたことのの美しさを見ることができます。5-7節を読んでいきましょう。⁵ **わたしはイスラエルにとって露のようになる。彼はゆりのように花咲き、レバノン杉のように根を張る。** ⁶ **その若枝は伸び、その輝きはオリーブの木のように、その香りはレバノン杉のようになる。** ⁷ **その陰に住むものたちは、穀物のように生き返り、ぶどうの木のように芽をふく。その名声はレバノンのぶどう酒のようになる。** 私たちが生まれながらの罪の状態から、創造主との関係性を回復するとき（すなわち交わりを持つことができるようになるとき）、その関係がどのようなものであるかを、この聖句は見事にとらえています。ここでは、神は露のようであると表現されています。イスラエルは砂漠の多い地域ですが、このような暑い地域でも朝には露が涼しさと清涼感を与えてくれるのです。露は聖書の中で神の祝福のしるしとしてしばしば用いられています。創世記 27章28節を見てください。²⁸ **神がおまえに天の露と地の肥沃、豊かな穀物と新しいぶどう酒を与えてくださるようにならう。**と述べられています。自分の力ではなく、神の力によって、罪からの救いを経験した人々は、満開の花のように、神が創造の時に意図された美しさを完全に示すようになるのです。先ほど見た創世記1章27節に戻ると、天地創造の時、神は私たちをご自分に似せて造られたと述べられています。罪は、私たちの中にある神の似姿を傷つけてしまいましたが、救いは私たちの中にある神の似姿を完全に回復するのです。ユリがその花の美しさを誇示するために造られたように、私たちも創造主の栄光を誇示するために造られたのです。私たちは、イエス・キリストを通してそれを行うのです。

そして私たちは、レバノンの木々のように正しい土壌に根ざすことによるのみ、私たちが創造された時の、本来の姿になることができるのです。その土壌とは、イエス・キリストその人なのです。彼の保護、彼の下で、私たちは花開き、私たちが創造された目的のために完全な姿で生を全うすることができるのです。さて、ここで言いたいのは、神との関係性が回復すれば、人生が完璧になるということではありません。神との関係性が回復されたからといって、すぐに何をするにも、神を喜ばせることができるという意味ではありません。成長には過程があります。救いとは、聖化と呼ばれている成長の過程であり、クリスチャンの成長は植物で例えると理解しやすくなります。聖化とは、神聖さが増し、キリストの似姿に成長することなのです。ピリピの信徒への手紙3章12節は、聖化において徐々に成長するということがどのようなものであるかを明らかにしています。¹² **私は、すでに得たのでもなく、すでに完全にされているのでもありません。ただ捕らえようとして追求しているのです。そして、それを得るようと、キリスト・イエスが私を捕らえてくださったのです。** 罪から救われた私たちの現在の状態を表すならば、「すでにあるが、まだない」と表現するのが適当だと思います。ティム・ケラーは、これを、創造、墮落、贖罪、刷新、回復を含む5章の福音の第4章として表現しました。天地創造、墮落、贖い、回復という4つの章だけで、すなわち刷新抜きで、福音を考えると、神が私たちの中で働いておられるという事実から目を逸らしてしまうことになってしまいます。永遠に続く私たちの完全な回復を経験する前であっても、私たちの中に神は働いてくださっているのです。つまり、この「すでにあるが、まだない」状態において、神は私たちを新しくし、イエス・キリストを知る私たちを通して、私たちを取り巻く世界を新しくしてくださっているのです。私たちが家庭、近所、職場に出向くとき一緒に持って行くのは、ホセア14章の6節で語られている「レバノン

のような香り」であり、これは具体的にはイエス・キリストの香りのことなのです。イエスが言われるように、私たちは世の光であり、人生のあらゆる領域にイエスの光を輝かせることができます。

では、どうすればこのようなことができるのでしょうか？それは必ずしも簡単なことではありません。私たちの永遠の回復という希望を目の前にしながら、どのように自分たちが作り変えられている、刷新されている期間を生きていくべきなのでしょう？これは、私たちの人生における**神の恵みの御業**による救いと同じことなのです。私たちが贖罪にたどり着いたのは、私たち自身の努力によるものではありません。それと同じように、私たちが日々作り変えられていく刷新の過程も、この世界でキリストの光の中に生きることも、私たち自身の努力によるものではないのです。最初から最後まで、すべては神の恵みが私たちの人生に働いているからなのです。8節を見てください。**エフライムよ。わたしと偶像との間に、どういう関わりがあるか。わたしが応え、わたしが世話をする。わたしは緑のもみの木のようだ。わたしから、あなたは実を得るのだ。**これらすべては、イスラエルの民と、今日のクリスチャンの日常生活における神の御業のゆえなのです。神こそが、私たちが悔い改めるとき、赦しを与えてくださる方であり、民が従っていた偶像はこのような赦しを与えてくれることはありません。神こそが、生ける木であり、私たちがその木につながるとき、私たちの中に義と善が実を結び、周囲の人々がイエス・キリストの光を見ることができるようになります。私たちは神に捧げるものを何も持っていませんが、神は悔い改めと信仰という賜物を与え、私たちに救い、赦しと実をもつて応えてくださるのです。すべては、私たちに創造してくださった方を拒んだ不誠実な人々に対する、神の誠実な愛のゆえなのです。

そして、ホセア書の最後は、私たちが毎週、メッセージを終えるときに問うべき質問、「あなたは（このような神の愛に対して）どのように応えますか？」という質問で終わっています。9節では、**知恵ある者はだれか。その人はこれらのことを悟れ。悟りのある者はだれか。その人はそれらのことをよく知れ。主の道は平らだ。正しい者はこれを歩み、背く者はこれにつまずく。**と書かれています。私たちがこの預言書の中で発見したことに、皆さんはどのように応答しますか？私たちは、自分たちが、創造主に対して姦淫の罪を犯し続けてきたことを見てきました。また、創造主は、私たちの罪のゆえに、私たちに対して怒り、その罪を罰することを約束されています。しかし、同時に神は、このように姦淫の罪を犯し続ける民を愛し続け、私たちに罪から救い出し、贖罪と祝福の場所へと連れ戻すために必要なことは何でもなさることも、私たちは目にしてきました。そして最後に、新約聖書で私たちが知っている主イエス・キリストという救い主が現れることによって、神がその贖いを与えてくださるということを、ホセア書でも何回も示してくださっています。ここまで読んできたことから、キリストが私たちの問題に対する答えであることを理解していただけただけでしょうか？皆さんは、福音に**応え**、イエス・キリストに従う人生を選択するのでしょうか？それとも、イエス・キリストの犠牲によって作られた神の元へ帰る道を選ばず、サタンとこの世の嘘に従い続け、福音を拒否し続ける人生を選択するのでしょうか？イエス・キリストはあなたの宥しなのです。イエス・キリストは、あなたのために神の怒りを受けてくださったのです。だから、あなたが今日、悔い改める時、あなたを揺るぎない愛で愛しておられる神によって、あなたは赦されるのです。祈りましょう。

The Path to Redemption Hosea 14:1-9

Today we are at the end of the book of Hosea. In this prophetic book God has spoken through the prophet Hosea to the people of Israel. He has called them out and condemned their sin, but pleaded with them out of his love to return to himself as their God who created them as a people. Throughout this book we have seen the people of Israel pictured as an adulterous wife to God their loving husband who faithfully pursues them in spite of their sinfulness. This prophecy was pictured for them by the real life illustration from the prophet Hosea himself, as he followed God's instructions to marry and then purchase back from prostitution his adulterous wife Gomer. Now as we come to Hosea 14 and the end of this book, we see the path to redemption in the response that Hosea is calling the people of Israel to have to this message.

Let's begin reading at verse 1 as Hosea begins his final words of prophecy. **Return, O Israel, to the Lord your God, for you have stumbled because of your iniquity.** This is Hosea's final call for the people of Israel to leave their adultery and return to their God. He will give them a path to that redemption as the chapter unfolds. But assumed in these words are everything that has been spelled out in the first 13 chapters where the extent of their sin has been explained in with great detail. These two words "**your iniquity,**" or sin, should stick out to us, because they describe all of us. Like Israel, our very existence is because of God himself. He created the nation of Israel and he created us. **Genesis 1:27 says, So God created man in his own image, in the image of God he created him; male and female he created them.** We were perfectly created to reflect God's image, but when the first human Adam sinned, we all fell from that perfection into a state of original sin from birth. **Psalms 51:5 describes that condition when it says, Behold, I was brought forth in iniquity, and in sin did my mother conceive me.** Not only do we have original sin, but that makes us incapable of not actively choosing to sin as well, and so we are guilty of original sin and ongoing sin that have committed. **Romans 3:23 says, 23 for all have sinned and fall short of the glory of God...** This is where the full message of the gospel begins as the first two chapters to that gospel are Creation and Fall. Everyone of us is a part of that story, and have been caught in that fall. None of us can escape the fall or the consequences of that fall. Those consequences of that iniquity, that sin, have also been spelled out clearly in this book of Hosea as God has promised punishment over and over to those unfaithful people of Israel who had left their creator.

But the gospel is good news, and it does not stop after Creation and Fall. Now, you can end your story there. Your sin has consequences, and you will suffer those consequences for eternity. **Mark 9:48 describes that eternal suffering as a place, 48 'where their worm does not die and the fire is not quenched.'** But your story does not have to end there, because the gospel does not end there. The same God who created and watched his creation fall into sin, also provided a path to redemption. And we see that path as this chapter continues. Look at **verses 2-3. 2 Take with you words and return to the Lord; say to him, "Take away all iniquity; accept what is good, and we will pay with bulls the vows of our lips. 3 Assyria shall not save us; we will not ride on horses; and we will say no more, 'Our God,' to the work of our hands. In you the orphan finds mercy.**" This is the first step on the road to redemption, **Repentance.** Redemption or salvation from sin is always connected to repentance. It is both a gift of God like our faith that brings salvation and a command that we are given to do in response to our understanding that we are sinners. **Acts 11:18 shows repentance as a gift. 18 When**

they heard these things they fell silent. And they glorified God, saying, “Then to the Gentiles also God has granted repentance that leads to life.” And Matthew 4:17 shows us that Jesus calls us to repent as a command. 17 From that time Jesus began to preach, saying, “Repent, for the kingdom of heaven is at hand.” What Hosea shows us here in this prayer of repentance he is calling the people of Israel to offer is a picture of real repentance. The *first* aspect we see of repentance here is that it involves clear words. “Take with you words...” is the way he begins. Repentance has to be voiced...from us to God. He is the one we have offended. He is the one we have committed adultery on, so it is he, the Lord, whom we return to with words of repentance. Repentance *secondly* involves a recognition of our sin. They are told to pray, “take away all iniquity.” And they don’t just leave it at a generic sin, they list specific sins they are guilty of. They specifically list off what they are rejecting. Trusting Assyria... trusting in their horses, their military strength... the idols, that they falsely called “our god”. *Third*, repentance is turning away from those sins. This is what the people of Israel would be doing in this prayer. They are rejecting those sins they are listing off. And *fourth*, they are turning to God. They plead for God’s mercy with the words, In you the orphan finds mercy. These words recognize who they failed. They recognize that they were rejecting their Father and making themselves like orphans, and the only way to remedy that relationship was God’s mercy. They could not forgive themselves and were not owed forgiveness. All they could do was plead God’s mercy.

There is a false repentance that is religious but not gospel centered. It is actually selfish and self-righteous, and even bitter. It is being sorry for the consequences of our sin, but not the sin itself. It becomes a way of atoning for the sin itself because we think if we are truly miserable over our sin, like we cry over it, then we deserve to be forgiven. This is the opposite of true repentance. When we consider repentance, there are 4 questions we should ask to see if it is true repentance. One, is it oriented toward God, or me? Psalm 51:4 says, Against you, you only, have I sinned and done what is evil in your sight... Two, is it motivated by Godly sorrow or selfish regret? 2Corinthians 7:10 says, 10 For godly grief produces a repentance that leads to salvation without regret, whereas worldly grief produces death. Three, did it change my heart, or just external actions? Psalm 51:10 says, Create in me a clean heart, O God, and renew a right spirit within me. And lastly, fourth, am I looking to Jesus to remove both the penalty and power of sin. We see this in Titus 2:13-14 says, 13 waiting for our blessed hope, the appearing of the glory of our great God and Savior Jesus Christ, 14 who gave himself for us to redeem us from all lawlessness and to purify for himself a people for his own possession who are zealous for good works.

The people of Israel, if they prayed this prayer, would be demonstrating true repentance that met the Biblical definition of Godly repentance, and God would respond with redemption shown by forgiveness. Verse 4 says, I will heal their apostasy; I will love them freely, for my anger has turned from them. This is true forgiveness. There is healing from sin. There is love freely given, because God’s anger against them has been turned away. This expression of turning away God’s wrath is important. We are not forgiven simply based on words of repentance we express, but because someone else took God’s wrath, his anger against that sin for us. That is called propitiation. 1John 2:1-2 says 2 My little children, I am writing these things to you so that you may not sin. But if anyone does sin, we have an advocate with the Father, Jesus Christ the righteous. 2 He is the propitiation for our sins, and not for ours only but also for the sins of the

[whole world](#). When Jesus died on the cross, God poured his wrath out on him, so that when we turn to God in repentance, we can be forgiven based on the fact that our debt has already been paid and our punishment already taken on our behalf. There are many today that don't like to use this term propitiation, because they don't want to assign the idea of God pouring out his wrath on Jesus. But the Bible is clear that sin has to be paid for and that God's anger is directed against sin. Jesus provided not only the payment for sin, but willingly accepted the punishment of God's wrath as well. In his death, Jesus did not just provide an example of sacrifice or triumph as victor over evil. These are both true, but he did so much more. He provided everything for us in his death to make salvation possible. This is true love for us, his unfaithful creation. As [John 3:16](#) tells us, [16](#) "For God so loved the world, that he gave his only Son, that whoever believes in him should not perish but have eternal life."

Because of Jesus's death, **restoration** with our creator is possible, because forgiveness can be extended. As this passage continues, we see the beauty of restoration that takes place as God's hand of blessing is now back on the people of Israel. Read verses 5-7. [5](#) **I will be like the dew to Israel; he shall blossom like the lily; he shall take root like the trees of Lebanon;** [6](#) **his shoots shall spread out; his beauty shall be like the olive, and his fragrance like Lebanon.** [7](#) **They shall return and dwell beneath my shadow; they shall flourish like the grain; they shall blossom like the vine; their fame shall be like the wine of Lebanon.** When we are restored to a place of fellowship with our Creator from the state of sin that we are born in, these verses beautifully capture what that relationship looks like. God is like dew in the morning. Remember that the area of Israel is lots of desert land, but in the mornings even in a hot area, the dew provides cooling and refreshment. Dew is used in Scripture as a sign of God's blessing. Look at [Genesis 27:28](#) **May God give you of the dew of heaven and of the fatness of the earth and plenty of grain and wine.** Under God's blessing and not under their own strength, the people of Israel and those who have experienced God's salvation from sin will be like a flower that fully blooms and completely shows the beauty that the flower was intended to show. Going back to [Genesis 1:27](#) which we looked at earlier, at creation, God created us in his image. Sin has marred the image of God in us, but salvation allows for the full restoration of that image in us. Just like the lily was created to show off the beauty of its flower, we were created to display the glory of our Creator. We do that through Jesus Christ.

And we truly become all that we were created to be only by being rooted in the in the right soil like the trees of Lebanon. That soil is Jesus Christ. And under his protection, his shadow, we flourish, we blossom and fully live our for the purpose we were created for. Now this blessing does not mean that life is perfect when our relationship with God is restored. It doesn't mean that we naturally and immediately please him with everything that we do. There is a process of growth. The illustration of plants is the best way to view the Christian life, because salvation is a process of growth and what we call sanctification. Sanctification is growing in holiness and Christlikeness. [Philippians 3:12](#) shows us this aspect of progressively growing in sanctification. [Philippians 3:12](#) says, [12](#) **Not that I have already obtained this or am already perfect, but I press on to make it my own, because Christ Jesus has made me his own.** It is this aspect of living in a period of "already, but not yet" that defines our current experience of being saved from our sin. Tim Keller described it as being the 4th chapter in a 5 chapter gospel that includes Creation, Fall, Redemption, Renewal, and Restoration. By thinking about the gospel in

terms of only 4 chapters, Creation, Fall, Redemption and Restoration, we lose focus on the fact that God is currently working in us and through us even before we fully experience the complete restoration of God's image in us that will come in eternity. So in this already, but not yet, state, God is renewing us and renewing the world around us through those of us who know Jesus Christ. When we go into our homes, our neighborhoods, our workplaces, that "fragrance like Lebanon" that verse 6 of Hosea 14 speaks about is the fragrance of Jesus Christ. As Jesus says, we are the light of the world, shining his light into every area of our lives.

How do we do this? It is not always easy. How do we live our lives in this renewal period while living with the hope of our eternal restoration before us? It is the same as our salvation, by **God's work of grace** in our lives. Our path to redemption is not by any effort of our own, and the work of renewal in our lives and living the light of Christ in the world around us is not by our own effort. All of it, start to finish, is God's grace at work in our lives. Look at verse 8 here in Hosea 14. **⁸O Ephraim, what have I to do with idols? It is I who answer and look after you. I am like an evergreen cypress; from me comes your fruit.** All of this is God's work in the national life of the people of Israel and in the lives of followers of Christ today. God is the one who answers our repentance with forgiveness, not the idols that the people had been following. God is the one who is the living tree that when we are connected to, we bear the fruit of righteousness and good works that allow people around us to see the light of Jesus Christ. We bring nothing of ourselves to offer God, but he saves us by giving us the gift of repentance and faith and responds with forgiveness and fruitfulness. All this is because of his faithful love for unfaithful people who have rejected the one who created us.

And the book of Hosea ends where we should end every week by essentially asking the question, "**How will you respond?**" Verse 9 says, **⁹Whoever is wise, let him understand these things; whoever is discerning, let him know them; for the ways of the Lord are right, and the upright walk in them, but transgressors stumble in them.** How will you respond to what we have discovered in this book of prophecy. We have seen that our natural state is one of sinful adultery against our Creator. We have seen that he promises to punish that sin by directing his wrath against us because of our sin. But we have also seen over and over that he continues to love his rebellious people and to do whatever is necessary to bring us back from sin and to a place of redemption and blessing. Finally, we have seen several different illustrations in this book pointing us to the way that God would provide that redemption through a coming Savior, who we know from the New Testament is our Lord Jesus Christ. Will you discern and understand that Christ is the answer from what we have read? Will you respond to the gospel and follow his ways which is to follow Jesus Christ? Or will you reject and push aside the gospel to continue to follow the lies of Satan and this world that offer so many competing ideas to keep us from returning to our Creator based on the sacrifice of Jesus Christ. He is your propitiation... He took God's wrath for you. So that when you repent, you can be forgiven by God, who loves you with an unfailing love. Let's pray.